

若年性認知症支援に係る支援体制調査結果

平成 29 年 1 2 月

京都府健康福祉部高齢者支援課

1 調査概要

(1) 調査の目的

働きざかりの年齢で発症する若年性認知症については、就労継続や生活の再構築など、多岐にわたる支援が必要となることから、早期に総合的な支援につなげていくことが必要とされている。

本府においては、平成29年8月7日から稼働する若年性認知症支援コーディネーターによる支援を開始しているが、既存サービスにつながりにくい若年性認知症の人が支援先につながるよう関係機関に支援体制調査を実施し、結果を『きょうと認知症あんしんナビ』に掲載することで、地域での若年性認知症支援体制構築をはかる。

(2) 調査の対象

若年性認知症支援において、特に初期段階での対応は症状の進行に伴い柔軟な対応が求められ、認知症高齢者への対応とは異なる場合があり、受入経験がないこと等の理由から受入先が少ないと言われている。

したがって、若年性認知症の初期段階で利用することが想定される下記機関を調査対象とした。

調査対象		対象数
障害者就労移行・継続支援事業所※1		390 事業所
介護保険※2	小規模多機能型居宅介護	169 事業所
	通所介護（認知症対応型含む）	726 事業所
	通所リハビリテーション	158 事業所
	居宅介護支援	767 事業所
認知症カフェ		141 箇所
全 体		2,351

※1 それぞれの事業種類（移行支援、A型、B型）毎に調査

※2 介護予防含む

(3) 調査内容

全ての機関に同内容の調査を行った。

調査項目

- ①若年性認知症の人の受入人数（平成28年6月1日～平成29年5月30日まで）
- ②若年性認知症の方を受け入れの可否（受入可能／特性やニーズによって検討）
- ③受け入れた場合の支援内容（ニーズに応じて／他利用者と同内容／その他）
- ④若年性認知症の人が利用できる事業所として、きょうと認知症あんしんナビへの掲載可否
- ⑤若年性認知症の方への支援に関する意見等

(4) 調査期間

平成29年8月25日～平成29年10月31日

(5) 回答内容 (全体)

11月28日現在

事業所種類	対象事業所数	回答数	回答率	若年性認知症の人の受入経験がある事業所数	受入実人数 (H28.6.1～H29.5.31)	若年性認知症の人の受入可能な事業所数		きょうと認知症あんしんナビでの公開可能	
						受入可能	要調整※		
障害者就労移行支援・継続支援事業所	390	202	52%	12	14	15	124	74	
介護保険事業所	小規模多機能型居宅介護	169	104	62%	18	25	50	54	86
	通所介護	726	405	56%	91	124	162	243	324
	通所リハ	158	80	51%	9	31	24	56	48
	居宅介護支援	767	432	56%	95	132	234	198	317
認知症カフェ	141	92	65%	31	77	55	37	77	
全体	2,351	1,315	56%	256	—	540	712	926	

※ 若年性認知症の人の特性やニーズにより受入を検討

2 事業種類別回答内容

(1) 障害者就労移行支援・継続支援事業所

就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所を対象に調査を行った。

11月28日現在

事業所種類	対象事業所数	回答数	回答率	若年性認知症の人の受入経験がある事業所数	受入実人数 (H28.6.1～H29.5.31)	若年性認知症の人の受入可能な事業所数		きょうと認知症あんしんナビでの公開可能
						受入可能	要調整※	
障害者就労移行支援	68	26	38%	0	0	1	18	11
障害者就労継続支援A型	66	39	59%	0	0	1	22	14
障害者就労継続支援B型	256	137	54%	12	14	13	84	49
合計	390	202	52%	12	—	15	124	74

※ 若年性認知症の人の特性やニーズにより受入を検討

<主な意見>

- ・若年性認知症の方を知るスタッフがいないため、どこまで対応できるか未知数だが、サポートがあれば、支援は受け入れたい
- ・支援者側のスキルがない。また知的障害の人との関係がどうなるのか分からない
- ・職員の若年性認知症の知識がないため、研修を通して理解を深めたい
- ・診断はついてないものの若年性認知症と想われる利用者様がおられる。今後、支援（認知症に対する）の知識、スキルを獲得していく必要を感じている
- ・農園作業・活動など提供できる
- ・脳梗塞を起こした高齢者（70歳）が利用されているが、働くこと改善がみられている
- ・若年性認知症の方が障害者手帳の対象となることをもっと啓発する必要がある

(2) 介護保険事業所

11月28日現在

事業所種類	対象事業所数	回答数	回答率	若年性認知症の人の受入経験がある事業所数	受入実人数 (H28.6.1～H29.5.31)	若年性認知症の人の受入可能な事業所数		きょうと認知症あんしんナビでの公開可能
						受入可能	要調整※	
小規模多機能型居宅介護	169	104	62%	18	25	50	54	86
通所介護(認知症対応型含む)	726	405	56%	91	124	162	243	324
通所リハビリテーション	158	80	51%	9	31	24	56	48
居宅介護支援	767	432	56%	95	132	234	198	317
合計	1,820	1,021	56%	213	—	470	551	775

※ 若年性認知症の人の特性やニーズにより受入を検討

<主な意見>

小規模多機能

- ・基本的に高齢の方が多いため若年の方がその中に入ること違和感を感じられるのではないかと懸念はある
- ・若年性認知症の方に対してのケア方法であったり受け入れ可能な施設・事業所がわかりにくい為教えて頂きたい
- ・基本的には高齢者が対象であり若年性の方の特性より周りとの年齢のギャップをどう埋めるか、周りの方の反応などが読めるのかが不安でもある

通所介護

- ・少人数制のデイサービスは家族の介護負担軽減、認知症進行予防、生きがいなど活用できる
- ・調理活動や園芸活動（書道教室・茶道クラブ）等で本人の役割や活力を見出す支援はできるが、他の利用者様と同じフロアで過ごしていただくので個別の対応がどれだけできるかは不安
- ・スタッフの若年性認知症支援スキルが十分でないため、研修等行ってほしい

通所リハビリテーション

- ・外来通院ではなくてデイケアを通じて在宅生活を支援している
- ・多重課題を用いた運動療法やスタッフ、他の利用者との関わり等の中で表情が良くなって、自宅での日常生活機能の改善がみられた例もあり、少なからず効果はあると感じている
- ・現在1名（60才で発症。利用5年目）のご利用だが、ケースカンファレンスを何度か開き、他者との関係性等、調整を行い手探りでケアをすすめている

居宅介護支援

- ・個別性が高いのでサービス、資源がなかなか見つからない。一緒に悩んだり苦しんだりする。
- ・若年性認知症の方を以前担当していた。ご本人だけでなく、介護者の方の支援が必要であることを実感した

(3) 認知症カフェ

11月28日現在

事業所種類	対象事業所数	回答数	回答率	若年性認知症の人の受入経験がある事業所数	受入実人数 (H28.6.1~H29.5.31)	若年性認知症の人の受入可能な事業所数		きょうと認知症あんしんナビでの公開可能
						受入可能	要調整※	
認知症カフェ	141	92	65%	31	77	55	37	77
合計	141	92	65%	31	77	55	37	77

※ 若年性認知症の人の特性やニーズにより受入を検討

<主な意見>

- ・若年性認知症の方の支援には、経済的な問題、就労の問題を解決するサポートが必要。また、家族の支援をするサポート体制や専門性も求められる。居場所的な機能だけでなく専門性が求められる
- ・認知症当事者の方が想いを発信する事の出来る場づくりが認知症施策担当者に求められている
- ・地域の活動と一緒に参加して頂いたり、活動の担い手として活躍できる場づくりを考えていく
- ・相談カフェに気軽に来ていただけるような工夫をしながら(例えば運営に関わっていただく etc)支援が出来ればと思う
- ・カフェに参加していただくことで人と交わる機会を得、さらに人とのつながりが増えるよう、共に歩んでいきたい。目標はカミングアウトと就労支援